



巻

第拾巻



一草一木の流のたぬあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに

岩文化て丑秋

林雪の意雅

券野意集

草園舎のあはれ
初てあはれ

丹後後野の意

定雅

あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに
あはれにのあはれにのあはれに

鳥 琴 雅

荒原の彩田むくく工木一多
山も鐘利ふ酒のたやけを
生籠りやと物やと喜ぶあり
うらよむす先の世探ひする
静の静れ白さのふををさし
漸おほは日ま 毎さ
去らしとき此海ありきなり
はるをこれらも路もを也
えれうた梅の春れよく利く
鳥 琴 雅 鳥 琴 雅 鳥 琴 雅

そく薄乃あふふと月
あ乃愛あふふ新新は也
まき里も居別處へあふ
ナヲ 別方れ跡とこやををたあ
殿の法物もあふ西目
夏れあを夏⁺舞^{コト}のあふあふり
うらよむくやと喜ぶあり
玉のあふあふと喜ぶと喜ぶ
妹のうらよむと喜ぶと喜ぶ
鳥 琴 雅 鳥 琴 雅 鳥 琴 雅

琴 鳥 雅 琴 鳥 雅 鳥 琴 鳥 雅 琴

あつた弱き一羽のしるしを

はくしうをさうしうの晴を

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

琴 鳥 雅 琴 鳥 雅 琴 鳥 雅 琴

あつた一羽のしるしを
あつた一羽のしるしを
あつた一羽のしるしを
あつた一羽のしるしを

母後遺書

曉吹

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

あつた一羽のしるしを

さうさうに玉蜀黍れ打乱色 起一
稲のちいさい湖 忠月 絲英
秋も少し暑れ居さうあつらて 雅
初うちやうに直の居風呂 吹
態の撥れ^{ニセ}髪を結い直さる所し 丈
人まはういふ侍者の古布 戸
思ふやあはせてふ引破れ 英
今ふ西日のはあね掬先 一
蝶のまれ細う舞う舞の月 吹

多田の神さるれ豆交て来る 雅
あられ子の藁よりききと枝さ 戸
傘をさるはしそ体むんせえ 丈
笑あつと朝をきけ来る茶の空 一
さうさう組まれ小角カ 英
玉島れ使し新をこつつけ 雅
帰後表のちいさ 吹
押詰しきけ世留れ世留れ 夫
さうさう海鷗をさうさう 戸

中よしと響れ灘の波乃音
 物も小鶯もまはさくく
 割合を尺さるる集む村の風
 今きとるあう海し葉の刺
 結納の思葉しとさし月乃種
 見えたり鳴りてあいの石を
 海流もあつて目れとるれ六ヶ
 てる糸のさる邪たふ善道
 悪ひ集し隣の家れ起て音も
 英 一 吹 雅 戸 夫 一 英 雅

ありぬきそ姉を姉り
 何とあつて境の流れをのそわと
 是れはさるる城乃石垣
 此道とをたくりとさ乃山
 流のあつとるる春様高し
 英 一 戸 夫

蝉乃音尺さるる家尾上り
 暑ささるるし暮れ夕孰二蟬
 加悦社中
 定雅

弓唄のるの寔七ノ籥箏^ニ替^ルて
 計^ハうゝみゝと又^ハうゝみゝと
 明日のあまあうゝ明^クけと
 秋もそら^ハく^レや風もあゝ
 海拂とは舞^ハら^ハか^ハしの^ハよ
 他人^ハやむのふま^ハれを^ハわ^ハく
 新^ノ母子の^ハ報^ハを^ハの^ハい^ハき^ハ日^ハ々^ハふ
 大^ハ車^ハの^ハ木^ハを^ハ捨^ハつ^ハふ^ハら^ハわ
 心^ハあ^ハら^ハぬ^ハら^ハぬ^ハら^ハぬ^ハら^ハぬ^ハら^ハぬ

井霞
芦舟
芦笛
雅
蝶
震
舟
笛
雅

か^ハう^ハり^ハい^ハ二人^ハ坊^ハて^ハ居^ハる^ハ月
 惜^ハし^ハも^ハあ^ハう^ハわ^ハて^ハは^ハら^ハし^ハ和^ハ琴^ハふ
 心^ハの^ハ清^ハく^ハ梅^ハ乃^ハを^ハれ^ハ坊
 心^ハの^ハ清^ハく^ハ釣^ハ瓶^ハの^ハ繩^ハと^ハ結^ハひ^ハた
 魚^ハれ^ハ鮎^ハり^ハ歌^ハの^ハ心^ハを^ハら^ハく
 赤^ハ梅^ハと^ハ賣^ハ排^ハの^ハ心^ハを^ハら^ハく
 清^ハの^ハ心^ハを^ハら^ハく^ハ心^ハを^ハら^ハく^ハ心^ハを^ハら^ハく
 小^ハ梅^ハの^ハ心^ハを^ハら^ハく^ハ心^ハを^ハら^ハく^ハ心^ハを^ハら^ハく
 交^ハぬ^ハお^ハら^ハく^ハ角^ハの^ハ笛^ハを^ハら^ハく

蝶
震
舟
笛
雅
舟
霞
蝶
震
舟
笛
雅

夏の月か〜のあまきつから
 後り〜牛細り油
 冠のきふ〜物あもん
 虹〜可あ〜あ
 一羽おは〜あ
 日都さ〜川き新田
 赤あ〜日あれ強〜花
 くら〜あ〜あ

舟 笛 窟 笛 舟 窟 雅

何〜あ〜あ〜川 粘
 赤あ〜の〜連〜あ〜あ
 番〜あ〜あ 城〜あ〜あ
 ころ〜あ〜あ 音〜あ〜あ
 丹波 煙〜あ〜あ
 花〜あ〜あ 朝〜あ〜あ
 くら〜あ〜あ

窟 塚 舟 笛 窟 雅

賀悦奥社中

定雅

明けや花をさかして

水と海をこゝろに夏め

つらき心はなほあはれ

花あやうきもさかす

岸しとも新のはな

さかすけりし秋風

出代も今なほ

清く是れは後ろ

蹴爪付くや

浪とてはくさ

指あきわ刀と馬

膝くさぬ

寺方も

燭も

つらき心はなほ

是れ代りも

赤飯も

秘蔵の

山

琴

山

琴

山

琴

山

琴

山

山

琴

山

琴

山

琴

山

琴

山

春のやみぬく婚をまよし

雅

春の夜振舞ふ花の影

山

風薫るやと虫歯の又起り

山

春乃急ぎこれ録 夢事

雅

揚一川 越きふはしと与力町

山

先づいふは流りし藤流れ花

山

嫁をいふお家の村れ名を隠し

雅

叫く人ふ海の志もあはり

雅

おんのいとあはり出る廿日月

雅

いづこいふあはれ一はし

雅

此村を越えおきろりろ編中

山

干鰯と騒ぐ朝れ揚白

山

山休し甥のひを占む

雅

れ入るるまはれ材木

山

灯の影く傘の中と透り見

山

郭乃表お席れ名は

雅

さうさうとふあはり花の影

山

海さうさうとあはれ

山

李朝亭とていふ

山田村中

定雅

ひやあふく中へ中流をたれ流る

あきつるくくくくく此れ戸

うんくくく月あそおのあうけ

見の身あはれあはれ代と

もく尻くすくくくくくく

あきあきあきあきあき

あきあきあきあきあき

李朝

波江

芭尺

州

江

尺

鼓謝年あはてあはてあはて

丸あはてあはてあはてあはて

母の風情あはてあはてあはて

物あはてあはてあはてあはて

船も通あはてあはてあはて

あはてあはてあはてあはて

日し暖あはてあはてあはて

あはてあはてあはてあはて

あはてあはてあはてあはて

雅

江

州

雅

尺

州

江

尺

雅

そらと日影の影乃中
名は乃まじ大和路
此あしり蚕ふ山乃まじ路
河あしおしりも邦家搦白
やはらひた内て初る初春種
ふあまあしりたれ家瘡瘡
いふれよう春うあしり川むら
あしりの舟と船し五日ふ
常まじり所は又人旅まじり

江 州 雅 州 天 州 天 州 天 州

牛られおほき若狭御さ
おのあし、燐耐ありとれとを
法子脊中、碓をゆき
小ら費新の延る月乃種
彼名をまけそ建まれ世路
河舟の飛とを遊とふらうり
唯は乃まをまけ 情家
流るれ終れ誓吉の路し下
指あしりふ源れまの飛あ

全 州 州 天 州 天 州 天 州 天 州

おろしれ 唄より なる 歌う へ 州

日 本 唄 久 あり し 其 の 日 尺

石川社中

町山

紫の戸や なる 山に 花を みる 鶯 鳴

夏 みの 唄 なる あり し 其 の 日 定 雅

海 なる 橋 なる あり し 白ひ し 素 艾

指 なる なる 萩 と 橋 なる 谷 川 雲 長

そ なる なる なる なる なる なる 月 巴 久

袴 なる なる と 接 接 なる 種 之 丸

珠 なる なる なる なる なる なる 羽 三

色 なる なる 酒 なる なる 縁 なる 分 里 笛

英 なる なる 物 なる なる 娘 なる なる なる 変 仙

お なる なる なる なる なる なる なる 枕 流

美 なる なる なる なる なる なる なる 扑 河

さ なる なる なる なる なる なる なる 左 北

河 なる なる なる なる なる なる なる 天 桂

青 なる なる なる なる なる なる なる 時 吹

誠 三つあはれいふ戸を小商ひ
 色 ちと川を旅を新物
 此 其の海流をわけて花のそ
 風 あつたあつたもあし
 河 ありきくふのおるあつて
 角 ちとらの霧夫はわかれ
 流 ちとけそ霧のこゝろのさふれ
 心 のりれ何かどくさい知を
 世 の垣まわりのあつたくれ

雅 三 笛 久 丸 艾 長 山 新

流 ちとあし 行人を幸
 け ちとあつたあつた本綿貫
 心 のりれの霧のそふれ
 中 六あつたあつた船の海し
 小 田の海ありのよとあつた
 果 ちとあつたあつたあつた
 よ ちとあつたあつたあつた
 ち ちとあつたあつたあつた
 霧 ちとあつたあつたあつた

雅 久 丸 山 長 吹 桂 北 阿

是くえ、はのほしあき夕言言
 舞いし蹴りてさきさき
 如月のむれ下新ち流るる
 麻の所へさきく島一投
 艾 地 樹 筆

久美濤社中

定雅

白雲也起りてやまの物言
 風吹くとき晴し秋を
 角力取旅うら旅の月けえ
 子英 昌平

町のそと法をさる市の言ふ
 新り土の凍けてある川乃橋
 何をいひまらへ地をけりか
 借てあし白をさるる路を
 娘をいりてをさるる家
 百々乃法をいひまらるる
 各々をいひまらるる
 凌るるるるるるるるるる
 石をいひまらるるるる
 青李 瓦橋 幕下 英 平 李 檜 下 子

漸しとされ後領をすまひし
 予をかくし海を借勢
 振舞を籠一投く城を明
 女をうりて浮屠乃孫を
 日志ふ面目とあぶうをれを
 たまらう乃旨めし咄の書く
 震かし夢いふふ保の筆に
 夕可たしく船をトやく
 あらしと將事たあつた書とせし

平 李 搦 下 英 平 李 搦 下 英 平

江戸にふいせいふ海田の風
 舞盤のやうにわらう人々
 納豆をきくくと佐中將
 夫の舌を寄るごとく海にをり
 梅二とむき枯れぬ月
 半葉あし房をくゆい海に舟に
 やみれ付かぬはもあていり
 丸葉をそそくきうくうり
 板もれあひあはれ 朝日

平 英 雅 下 李 搦 英 平

下深きこころをこころ念と入
 下人よれ女房かこころ
 ありし男のあふ眼をいふ
 右よれいづれ井もれいづれ
 李 檜 下 平 檜 李

ふあふあ

定雅

平きくれはさくく井

是日れ月乃終に 枯枝 平
 水鏡ぬく大子の顔れ終くれて 雅
 新くきし人乃其れあわ 平
 少りよあそとまれきくの暖き 雅
 志ろははる白し子笑乃枝 平
 ことゆきのしらく通る廣く強 雅
 天まをさむしちを十日 平
 あり附乃二つあそいあそ 雅
 おそろくく命し占 平

生むれはるるも報を請ふあ
 ちるるもとるる報の實
 其の庵此名月とて中を請て
 ちるるもとるる報の實
 さるるもとるる報の實
 其の庵此名月とて中を請て
 又さるるもとるる報の實
 結るるもとるる報の實
 ちるるもとるる報の實

雅 平 雅 平 雅 平 雅 平 雅 平

味もあつてはるる報の實
 呪もあつてはるる報の實
 獲るるもとるる報の實
 市もあつてはるる報の實
 うちもあつてはるる報の實
 厭もあつてはるる報の實
 流もあつてはるる報の實
 酒もあつてはるる報の實
 ちるるもとるる報の實

平 雅 平 雅 平 雅 平 雅 平 雅 平

名のさしつらうあつた^{サニキライ}地天糧

平

店れや痛ふ人絶乃やれ

雅

ちりも平いしは好く河をいすま

平

家巾はくあく殿の元彼

雅

まを娘れ神くおはし

平

高かき入し流の川舟

雅

ハもれあふもあつたま星り

平

善のたね九二番 静し海

雅

藩あつ

善本

名りやねのまを秋の月

むしうろ乃くは跪く 高 定雅

雅

善く組む新年を本れ 高 全

全

末れ中も十く一あふ

本

此多り海賣の家のおふらき

全

ちはらしとを海れ 善

雅

善れもの鳥き好くあはら

本

かきく起く昔は龍をたぐ

雅

歌をうし娘を寺へ嫁せし

船へ遊びよあつた紙屋舎

何本もひきよと傘と叩き是れ

薄釋果し醫方志玄關

是れ日擲のひらく序(と

うせよおまじと必すすし終

ふところ 瘡はとれか下はく

彼者の入る一葉よ 白臭

一技よもぬれやうの志の暖

山に日は照れまれ村も

かゝ舞の房のく驚く終り付る

庭ももつと一飛弾の月茶

まのこもやう(と)やまの直

隣をかりて麦搗く音る

夕方の舞あいの女房のまにまに

何れも夢にりし世の海舟の歌

まゝのこもやう(と)やまの直

まゝのこもやう(と)やまの直

埃く山門の乾きたあらしを
 六庫あしりれ夕飯の月
 相撲の飯せよと二階へあてて
 丸をまわして橋かけふり
 各あつとちうりやとよけてる
 春のぬきさるあふせり
 ともこしと余念の約執のやま
 漢ちうはく風のこはく
 和絃とてさるの連を待合を

雅 本 雅 本 雅 本 雅 本 雅 本

廊をわらわらふれ上 本

おとろ

他馬出を結中

定雅

秋の月お入つれ二あつて
 けり舞とまゆゆれ 雲 圃夫
 菊のしち飯のさるの啼やと 菊 彦
 其のさるのさるのさるのさる 其 雪
 ちのせれ山登りあしき風きり 里 南
 井戸堀をり於不あし 風 季

きりりし家賃とせしむる千早人 野松

やうい女房も世今か中一 馬松

降額の小神を人よむけしし 丈

破換ししよし人磨のま 庵

鶯の指ふをのほくハツト 雪

細豆をたたく想板のそり 角

物お中顔の髪のうちら乱 李

そ家名をささくしんせし 松

胸のゆれ音とお合よる提灯 島

和名、河舟のりあむし 丈

あいらしちさあしありし花の雪 庵

小鼓おをを響くたを 雪

善法とらう家と家賃と入てあり 角

なまか帯乃をさこあらし 李

掠るれ形しし流十お前 松

上島崎くをよ梳家を 翁

ふたさくねらな屋を切けし 丈

きりりし家賃とせしむる 庵

捨あつし首出は月廿紫や所
 意はよきとて夢入義の終は
 けりてふとてふの終は思ひて
 流のつらとてふのわらはく
 夫はし家終の尋してあけし
 門下は流連を流山体忠家
 終極のちはふと終極の思ひて
 終つてあつしは終つてあつし
 終つてあつしは終つてあつし

角 吉 危 急 雅 松 孝 角 吉

あつしは陽あつしはあつし
 紫あつしはあつしはあつし
 紫あつしはあつしはあつし

紫 松 支

与謝社中面する

定雅

紫あつしはあつしはあつし
 月あつしはあつしはあつし
 紫あつしはあつしはあつし
 紫あつしはあつしはあつし

至天 全 雅

改まのく指活の自心と改くしん 全

二月のあまきと改めたるはく 至

徳中らあまき

定雅

かしこく勤ま八室く 枯鳥花

志くれしてまきく 忠恕

揚幕の上下もあまき揮馬を 全

多打そくく鯉の庵丁 雅

名月。あまき尺寸くあまき 全

編をこれ力くふくむる 巨れま 忠

清のいの世話く建くしたるあまの庵 雅

庚くれたるは新心 埃色 忠

丸まきくあまき実出に 濁者 雅

色くく 相く姉乃 縁組 忠

五りあまき清くまあまき 素良願 雅

房ゆ 積出に夏れ 朝月 忠

清側くまあまきあまき 経改みとて 雅

鶴くまあまきあまき 那きれ中 忠

宰相のふ枕あつて昔れを
 小倉れみの屋へきよ日
 後和の海名も志よるうり
 雅志智く神ありす

雅 全 忠 雅

丹後宮律

定雅

清くしつとて通やあれを
 嵐と吹くん冬れ病くれ
 紙幣のつらゆる約はけく

全 雅 道

昔一息あれうらと見ては
 り何とて理あうちうける雪の月
 淡多れねの種さうけし
 生て居る籠を車とて作る
 是れお坊のトは村雪
 明神のまじしそまふは見え
 幽年一おあてしあててや
 うら昔あれ昔の相とて指して
 余程まじし口のみ

雅 全 道 雅 全 雅 全 雅 全 雅 全 雅 全

澄原しこつとつし清くし

程

嫁し純きのの 杜あはく

程

子能よ海苔の白くと海の家じ

程

花の葉の 留れ 音 月

程

心早くてもりてゆふ小敷結て

程

以器者れ朝の柳をくし

程

沖物をし中入てきる夕日暮

程

心よあつて流下結れ割

程

一番の琴に 山内のおとせあ

程

らるよ 心くし 蕨の井の子

程

あはれふしつとと 晴くし

程

こあさしきくたし 結れ結あけ

程

あまれ 結めくし 接のま

程

標の浦一さや 流およひあ

程

けはきくしの通し 流くし

程

あすの 流くし 音よしとあ

程

あすあつて 孫くきつとつとあ

程

あつとあつて 風きつとああ入り

程

11111

杯をぬきて舞ひあそぶとくはらうらな
 又よよの影れ掛り頼母子
 けしき見れはけの清くもなうらな
 あらうらなをみ掛り朝の目
 髪掛ひを舞の志見とけけく
 朝のうらなをきけに月
 雅 雅 雅 雅 雅

宮澤社中

定雅

よか指らうらなやうらなをけの目

井の戸らふきあは月 三孝
 細幹をうらな清の志見して 琴人
 けしき見れはけの清くもなうらな 守瓶
 又よよの影れ掛り頼母子 逸士
 遊路をれ頼子あは頼子 文山
 女房のちりけ 乳あそを痛うらな 方長
 十束料一即の小葉は花就以 舎平
 穀粒をぬき出さうらな批把の花 南涯
 鳥好らうらな 占みの家 文蔵

人より〜と我より〜と
馬良

小指の先へ胡麻れ 筆
撰

短冊あり〜
宮津社中

あいらつあつあつ
白兒

おもしろ〜月の人あり夏乃春
之芳

十の首も〜
馬吹

おもしろ〜
藝道

忙飛〜
相老

富々〜
空谷

勢〜
一丸

美観〜
三孝

皇曆うらやまの世に清く
善く時をたらしめんと
夕顔のまはりて
守瓶
文山
方岳
南渡
舍平
跨山

久美漆社中

白雲のまはりて
昌平
青雲
瓦搦
宇玉
守瓶
文山
方岳
南渡
舍平
跨山

石川社中

秋の月 一かたして 満の月 町山
 多ふ中 遠きと 切中 草花 天柱 傍
 風は 言 秋の おと ち 風 秋の 月 素艾
 風の 骨の ち ち ち ち ち ち 巴久
 芥の 骨の ち ち ち ち ち ち 雲長
 昔の ち ち ち ち ち ち 羽三
 夏の 月 ち ち ち ち ち ち 変仙
 枝の ち ち ち ち ち ち 睡吹

秋の 月 ち ち ち ち ち ち 里留
 ち ち ち ち ち ち 之丸
 柳の ち ち ち ち ち ち 左地
 ち ち ち ち ち ち 朴河
 ち ち ち ち ち ち 枕流
 ち ち ち ち ち ち 漱石 上

山田社中

娘の 命の ち ち ち ち ち ち 葉砂
 ち ち ち ち ち ち 破江

浮山出て入る冬とかなり危 芭尺
ふれ東の苗入庭入し 葎の乳 土橋
雨よりもさられ 露のつちもくろい 龜仙うし

かき紙社中

杜若草くんと思ふ 露をくち 井霞
ふれ後ねをさぬく 草のき 二蝶
つとふもき 枯さるるうり 空の雲 芦舟
一日をさぬくも 花あはれ 櫻のよ 芦笛

かき紙社中

船をさる二人 桑きく 瀬舟 如琴
ふれ 舟の思ひ 春梨
ふれ 舟の思ひ 春梨
めいし 舟の思ひ 春梨

かき紙社中

牛の春れ 夕日 舟の思ひ 浦月
舟の思ひ 舟の思ひ 舟の思ひ 可石
編毒の 舟の思ひ 舟の思ひ 至天
舟の思ひ 舟の思ひ 舟の思ひ 舟の思ひ

舟の思ひ

蟹土の海心し 露ぬ種丸風 雲正
 幸し雨も 煙きし川 秋意く道 雨柳
 雲たけし 露迷ひるこし けし鳥 飯非
 白雲たけし 露きし川 日影 菊風
 川たけし 露きし川 日影 池柳
 遠路 旅乃舟も人の舟も 梅の乳 玉河
 磯の舟も 梅の乳 梅の乳 梅の乳 似雪

常中と朝の初き、日影も 倉琴
 乙尺れ海なり 舟も舟 常中と朝
 後中し 舟も舟 舟も舟 舟も舟
 飛去て 舟も舟 舟も舟 舟も舟
 舟も舟 舟も舟 舟も舟 舟も舟
 舟も舟 舟も舟 舟も舟 舟も舟
 舟も舟 舟も舟 舟も舟 舟も舟
 舟も舟 舟も舟 舟も舟 舟も舟

清くや旭乃ふれ卯一之乳 松慶

きつりてかひくくせむ。 松慶

首のきそて丁の人見る夕戸うね 孫英

まを替へく軒の白人のまおあひ 吉甫

花のちちうとて早しとて打たあや 晚吹

朝魚や色うはるる雨乃中

徳の
中山社中

谷川の音そりりや一粒乃風 平夢

其のつらとんくはうと切花の 一枝

河公あゝ病て活るも強うれ 忠恕

子孫うりしひくくさるり墓のむ 麻斤

蓮のふつてしち海女まのあ 杜月

木れをあらうきまなりや村れぬ 谷神

終くゆかて見まふまきま 吉水

鳴たりり君汝境きま猫をむ 雨亭

と歌唐や机のちも 種乃う房 茶香

名りや何んくく結のあや 耕堂

ふらまはまんとてやうけいもあれ中 一貫

朝のあまのり人歌をうゑ給ふ女 又給

そよひの目ききあはれをうゑ給ふ女 勇

朔れをうゑ給ふ切く夏る月 雅入

旅人のあはれをうゑ給ふ文何赤子 雅入

ね一本給ふと入也種乃月 雅入

出 出也社中

描としてうゑ給ふと入也種乃月 菊庵

此のあはれをうゑ給ふと入也種乃月 呉雪

あはれをうゑ給ふと入也種乃月 風亭

あはれをうゑ給ふと入也種乃月 望角

あはれをうゑ給ふと入也種乃月 野松

種のをうゑ給ふと入也種乃月 圃文

出也社中

あはれをうゑ給ふと入也種乃月 警徳

あはれをうゑ給ふと入也種乃月

あはれをうゑ給ふと入也種乃月

あはれをうゑ給ふと入也種乃月

あはれをうゑ給ふと入也種乃月 棠風

新さや葎へたらね種れふ
幼きやとあまをわきれ望望者^女 泣の
晴るあや十七日、白き梅れ月 露風
ねをりておきふねも秋の風、
葉れ花乃きこひをそえ見れ親^{日社中} 圭口
夏葉れあをきこふや夕了と 全
室れ梅このもちねてあまあ 得奥
本〜の戸口をわきあたり、のれ 杉溪

云々これ播きとくさくさ^春あ
社圃のあまあてよこ^口と謝の浦
ふ舟とくさくの播下ふ^いんねた
風和〜と浪き^川にあこ^らの好風
海ふ^くはわかき^さあ^い海^のい^りて
見あま^らの^いら^らて^ら見^せたり^し種^のあ
此景^をあ^まの^いら^らて^ら見^せたり^し種^のあ
い^りて^ら見^せたり^し種^のあ
あ^まの^いら^らて^ら見^せたり^し種^のあ

光のあまのふたなりのおもひなり
ふたなりのおもひなり
おもひなりのおもひなり
おもひなりのおもひなり
おもひなりのおもひなり
おもひなりのおもひなり
おもひなりのおもひなり
おもひなりのおもひなり

三四

定雅

光のあまのふたなりのおもひなり

与謝日記 全

宇治 李阿

其母及及之記之文章あり
とるも板

文化二年 世英

高松三平を挿す切取入

書林 吉田屋佐之清

